

令和 1 年度

学校教育自己診断アンケート結果報告



令和 2 年 5 月
宣真高等学校

学校教育自己診断

「令和1年度 学校評価アンケート」結果のまとめ

令和2年5月 宣真高等学校

はじめに

学校は地域社会からの期待を正しく受け止めて、それに応えるため保護者・生徒・地域と一体となって教育活動を進めていくとともに、「開かれた学校作り」「信頼される学校作り」を確立することが重要になっております。そのために学校の教育活動全般に関する情報を、保護者や地域に積極的に発信し、説明責任を果たすことが求められています。

宣真高校においても、教育活動の更なる充実発展を図るために「学校教育自己診断」を実施しております。これは本校の運営上・教育上のさまざまな面について、教職員が自己診断を行うと同時に、生徒と保護者の皆様にも診断アンケートに協力していただき、教育の送り手と受け手の双方の評価を点検・分析するものです。これは学校運営や指導方法上の課題を浮かび上がらせるための欠かせない基盤行程であり、ここから改善改革の最重要ポイントを策定して、今後の教育活動の方針に反映させるつもりでおります。

アンケートにご協力いただいた皆様に御礼申し上げますとともに、これからの宣真高校の充実発展のために、忌憚のないご意見ご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。

実施状況

	1 生徒対象	2 保護者対象	3 教職員対象
実施日	令和1年12月24日	令和2年12月24日	令和2年12月24日
回収期限	令和2年1月18日	令和2年1月18日	令和2年1月18日
回答者数	615人(80%)	618人(80%)	17人(38%)※

※未提出者について新型コロナ感染への対応にて催促・延期が徹底できず

集計結果と自己評価の見方

回答は、設問に対するA B C Dの四択式になっています。

設問の内容がよく当てはまる場合はA、やや当てはまる場合はB、あまり当てはまらない場合はC、まったく当てはまらない場合はDをそれぞれ選んでいただいています。

次ページからの集計結果一覧で、設問ごとにA B C D選択の実数と割合(%)を表示していますが、大きく把握するために『当てはまる=肯定的評価=A+Bの%』、『当てはまらない=否定的評価=C+Dの%』も併せて表示しています。小数点2位以下の四捨五入によって必ずしもA+BとC+Dの合計が100とはならない項目もあることをご了承ください。

次に設問の観点ごとにブロック分けをし、各ブロック内で特に注目すべき項目を取り上げて、その背景や理由について分析したものと、取り組むべき重点目標を記しています。また記入していただいたご意見は、順不同ですべて並べております。

評価結果から 一分析と目標

A=よく当てはまる B=やや当てはまる C=あまり当てはまらない D=まったく当てはまらない

A+B=当てはまる C+D=当てはまらない

①学校運営・特色づくり

生徒	1	宣真高校には、他の学校にはない特色がある。	A+B	90%
保護者	1	宣真高校は、他校にはない独自の教育活動に取り組んでいる。	A+B	86%
教職員	9	生徒が、各コースに設定された授業・行事に満足しているかどうかを調べて、反映させるよう努力している。	A+B	65%

評価結果と分析

I 分析

生徒1の肯定的評価A+Bの割合は、前回同様90%台でかなり高い認識度と言える。ただ具体的にどのような点で他校と差別化されているのか、生徒の認知のしかたは個々それぞれなので、数字通り全体として高評価だと受け止め、この傾向が継続するよう努めたい。保護者1の設問に対する86%は前回より1ポイント上がり、学校の各種取り組みの狙いなどが効果的に発信されていると考えられる。教職員9の設問については意外であるが前回より12ポイント下降している。選択授業やコース行事を客観的にとらえる余裕が失われているように思われる。特に問題がないのなら内容を維持しても可であるが、改善すべき点を放置しているのならおおいに意識改革が必要である。

II 重点目標

本校の行事・特色や取り組みについては、ホームページやライン発信をかなりの頻度で更新して逐次発表を行うようにしている。2020年度は校舎の大掛かりな改装も控えており、制服の一新も併せて、生徒の学校生活に新たな変更が生じる。こういう変化のときこそ、いっそうの情報発信と相互理解が必要とされる。本校の意図を迅速に情報提供して、より丁寧かつ適切な手段を活用し、生徒や保護者に今後の展望を周知していく。

②教育相談

保護者	3	宣真高校は、家庭への連絡や意志疎通をしっかりとおこなっている。	A+B	86%
-----	---	---------------------------------	-----	------------

評価結果と分析

I 分析

生徒に関する情報、特に不登校や遅刻、長期欠席、事故、病気等についての家庭との連絡の重要度と頻度は年々増している。それ以上にカウンセリング室生や成績不振者についての、家庭への現状報告や見通しについての情報共有の必要性も高まっている。不在の上、まったく折り返し連絡もない欠席が続く場足は、担任と学年主任が家庭訪問しているが、そのケースも増えている。

II 重点目標

生徒のさまざまな学校生活での事象・変化については、必要に応じて、主観と客観を区別して教員側が心して家庭に連絡しておかないと、予想外の齟齬や誤解につながる例がある。特に出席日数、成績にかかわること、進路にかかわることは極めて重要なので、誠実な姿勢で家庭と向き合い、生徒の現況、将来について、間違いなく情報を送るよう心がける。

③学力指導

教職員	3	休みがちな生徒や、ノートやプリント類を提出しない生徒には根気強く指導し	A+B	88%
	4	特に理解の進んでいる生徒にも不満がないような授業展開を講じている。	A+B	82%
	6	チャイムと同時に入室、生徒の授業態勢の確立、授業中の適切な注意指導等に意を砕いている。	A+B	71%
評価結果と分析				
I 分析				
<p>設問3のように、不登校の生徒や、怠惰ゆえに提出すべきものを出さない生徒に対しては、方法を講じて何度も提出の催促と機会を作るように工夫している。設問4については数値は前回より13ポイント上昇している。授業の理解度のばらつきが出ないように、各レベルの生徒に目を向ける意識が高まっていると思われる。また看護系クラスについては生徒数の関係もあって、国数英において2展開授業を導入しており、習熟度別に分けたためにいっそうレベルの焦点を絞りやすかったのもあると思われる。設問6については前回より21ポイントも下降しており、授業開始時の緊張感が意識されていないという残念な結果が出ている。</p>				
II 重点目標				
<p>成績不良の生徒を引き上げる努力と、実力のある生徒を伸ばす生徒への取り組みは、同時に同等に同じだけの熱意をもってなされないといけない。引き続き、プリント使用、ICT機器利用、調べ学習、好奇心を引き出す導入、緊張と集中を持続させる緩急をつけた展開、などの指導スキルの工夫をする。授業の「改良」という言葉を毎日の指針にするくらい、自覚するようにする。また、なぜポイントが激減したかは不明だが、教員には早めの職員室を出発し、チャイム入室を守るように改めて指示していく。授業中の私語への注意指導についても、何度注意しても改善の見られない生徒がいた場合、学年で嚴重に指導するなど、授業担当者と学年との連絡密度を上げていく。</p>				

④学校生活

生徒	2	生徒同士や、先生と生徒の仲はよいほうである。	A+B	89%
	3	悩みごとの相談について、先生の相談しやすい雰囲気がある。	A+B	66%
	4	先生は、生徒のプライバシーを守ってくれる。	A+B	77%
	保護者	4	宣真高校では、子どものプライバシーはよく守られている。	A+B
	5	子どもは、心身の悩みについて気軽に先生に相談できる。	A+B	71%
評価結果と分析				
I 分析				
<p>【生徒設問2】 昨年度より在籍数が増加しているが、友人関係及び教員との関わり合いは良好であると印象をもつ生徒の割合は上昇している。平素の学校生活における生徒間または生徒・教員間の双方向コミュニケーションがスムーズに行われている裏付けであると見受けられる。今後も、更に密な関係構築を進めていきたい。</p> <p>【生徒設問2、生徒設問3及び保護者設問5】 昨年度より若干ではあるが、教員へ自分自身の心の内を相談しやすい環境下にいる認識している割合が上昇している。また、我が子がそのような良好な関係下にいることを、大多数の保護者も認識しているようである。しかし、全体の1/4ほどの生徒及び保護者にとっては、自分のことを話しくいまたはサインを出しにくい環境であると感じている現況でもある。「親しみやすい」「声をかけやすい」ことが「自分自身の心の内を相談する」に比例してはならず、家庭においても「先生に相談してみたら…」というアドバイスを出しにくいとも考えられる。</p> <p>【生徒設問4及び保護者設問4】 生徒個人のプライバシー保護に関する教員への信頼度については、一見して高い数字を示している。しかし、一部の生徒やその家庭からは、自分自身の情報や状況の秘密を守ってはくれないという印象をもたれていることも否めない。 この数字が、生徒が教員へ色々相談しようとも躊躇してしまう現状にあることとも考えられる。</p>				
II 重点目標				
<p>多くの生徒が、学校生活全般において良好な人間関係を築いているといえる。しかし、大なり小なり、まだまだ人間関係においけるトラブル要素、悩み、不安を抱えながら毎日を過ごしているとも見受けられる。生徒同士、生徒と教員間の関係を更に良好なものとするために、生徒の出すサインを見逃さず、タイムリーに声掛けをする必要がある。</p> <p>また、生徒が教員に声をかけやすい環境を作るためにも、懇談のみならず常日頃より生徒と接する時間を確保し、一層の生徒理解に努める必要がある。また、生徒同士の人間関係構築のために、コミュニケーション力の向上や他者への思いやりを教化していく。さらに、コミュニケーションツール(SNS等)の正しい利用方法の教育を定期的かつ継続的に実施し、スムーズな人間関係構築を促していく。</p>				

⑤学習状況

生徒	5	コースやエリア独自の授業や行事は、自分の興味・進路に役立つと思う。	A+B	89%
	6	各科目の先生の授業は、それぞれよく理解できる。	A+B	71%
	7	わかりにくいところを質問したときや、欠点をとってしまったときなど、先生は丁寧に教えてくれる。	A+B	84%
保護者	6	授業は積極的に取り組めて楽しいようである。	A+B	77%
	7	成績不振の生徒への学習指導がよく行われている。	A+B	79%
	8	コースやエリア独自に設定されている授業や行事は有意義である。	A+B	89%

評価結果と分析

I 分析

「コースやエリア独自に設定されている授業や行事」に対して、生徒、保護者からは昨年度とほぼ同様の理解、評価をいただいた。コースやエリアへの満足度が安定しているのはとてもありがたいことであり、本校の取り組みを認めていただいたので、今後とも更に良いものになるよう努力が必要である。成績不良者に対する放課後勉強会を始め、各授業担当者が授業外で指導を行うなど、学習面でのサポートを実施しているが、特に生徒から高い評価が得られたのはとても良かった。「各科目の先生の授業は、それぞれよく理解できる。」という問いについては生徒の評価が昨年度から2ポイント下がったが、70%を超える生徒が授業がよく分かると答えてくれた。100%に近づけるよう、更によく分かる授業、楽しく積極的に参加できる授業にしていきたい。

II 重点目標

タブレットを利用したリンクイングリッシュの授業が本格的に始まったので、軌道に乗せられるようにしたい。また、よく分かる授業、楽しく積極的に参加できる授業にするため、生徒の求めるところをしっかりと把握するようにしたい。ICT環境の整備を更に進めていき、他教科の授業でもタブレットやパソコンを利用した授業ができるよう取り組みたい。また、アクティブラーニングにより、生徒間での話し合いを活発化し、生徒からの発言、発信が盛んになるよう工夫していきたい。

⑥不登校生対応

教職員	15	カウンセリング室生は、各種の学校行事・コース行事にどんな形であれ参加できるようになっている。	A+B	88%
	16	カウンセリング室生にとって、過ごしやすく、かつクラス復帰のうながす環境設定がととのっている。	A+B	94%
	17	カウンセリング室生の進路保障についても、十分に手を尽くしている。	A+B	88%
	18	カウンセリング室担当者と、担任・教科担当者との連絡は密に行われている。	A+B	94%

評価結果と分析

I 分析

すべての項目で昨年度よりポイントがアップした。特に環境設定の整備と教員間の連絡の密度は100%に近づきつつある。カウンセリング室担当者の不断の努力により、カウンセリング室生が各種の学校行事・コース行事に参加できるようになってきている。メールによる連絡を始め、登校時の声掛けによりカウンセリング室生の参加に対する抵抗感を低減している。又、カウンセリング室生の進路保障については、進学を中心に生徒の希望にできるだけ沿う形になってきている。各種の考査、提出物等のやり取りもスムーズに行えるようになってきている。ただ、学年、担任、教科担当者による不徹底が見られることがあるので今後とも是正していきたい。

II 重点目標

昨年度以上に教室外登校もできない生徒、起立性調節障害等で午後遅くからでないと登校できない生徒が増加してきている。そのため進級・卒業のための出席日数の確保が問題になっている。長期休業中に登校をさせたりするも、それだけでは不十分なケースが増えてきている。その傾向は年々強くなっており、対策が喫緊の課題であり、必要不可欠である。

⑦進路指導

生徒	8 進路について、一人一人に適した丁寧な指導がされている。	A+B	79%
	9 進路について、説明会や見学・研修がよく設定されている。	A+B	88%
保護者	9 進路指導について、希望進路に関する最新の教育情報をよく伝えている。	A+B	78%
	10 進路指導について、ガイダンスや動機づけの機会がよく設定されている。	A+B	81%
	11 進路についての面談や相談が十分におこなわれている。	A+B	79%
教職員	10 生徒一人一人の希望・適性をすくいとるように、こまやかな進路調査をおこなっている。	A+B	94%
	11 生徒が必要としている進路情報について、積極的に複数回、提供している。	A+B	100%
	12 学年・コースで進路指導について、しっかりした年間計画が立てられている。	A+B	88%
	13 進学・就職に対して、生徒に各自の将来のビジョンが描けるようにガイダンスを工夫している。	A+B	88%
	14 進路について意欲に欠ける生徒に対して、根気強く働きかけている。	A+B	94%

評価結果と分析

I 分析

昨年度よりも生徒・保護者の満足度が大幅に上昇している。おおよそ8割の生徒・保護者が進路についての取り組みに理解をしてしてくださっていると考えられる。しかし、未だ教職員の意識との間にズレがあることも否めない。今年度は特に、センター試験最後の年であり、大学入試改革を来年度に控え、現役合格に例年以上にこだわり、進路に対する意識も高かったように思われる。また、当該学年の学年団が第1学年より丁寧に個別対応をしてくださった結果かと思われる。入試改革の該当学年である第2学年においても、進路に対する不安感や意識の高さから、今回の調査では高い数字が出たのではないかと考えられる。

II 重点目標

来年度に大学入試改革を控え、A O入試や指定校推薦入試の入試方式の変更や、大学入試共通テストの実施など、生徒・保護者にとって必要な情報提供を積極的にする必要がある。現時点において不明な点が多い分、その都度最新の情報を生徒・保護者に提供し、自らの進路選択を考える時間をしっかりと与えたい。また、教職員に対しても入試制度の変更や進学・就職に関する情報などを共有し、進路指導部だけでなく、全ての教員が共通認識を以て生徒の進路指導にあたることのできるよう心掛けなければ、誤った進路選択がなされる危険性がある。全体に対するガイダンスだけでなく、生徒・保護者との個別での相談が受けられるよう、学年と進路担当スタッフが連携し、情報提供や進路指導を行っていききたい。

⑧生活指導

生徒	10 先生は授業中の私語や居眠りを厳しく注意している	A+B	58% (昨年度57.0%)
	11 生徒指導の方針についてはよく理解できる	A+B	66% (昨年度73.0%)
保護者	13 宣真高校の遅刻・携帯電話・頭髪などの生活指導面の方針に共感できる	A+B	75% (昨年度77.0%)
教職員	19 すべての教育活動を通じて、社会規範や公共心・道徳心を大切にする意識が育まれている	A+B	94% (昨年度88.0%)
	20 情報モラル教育について、よく生徒に正しく適切な指導が行われている	A+B	100% (昨年度88.0%)
	21 いじめの早期発見について、生徒の変化や動向を特に意識している	A+B	100% (昨年度88.0%)
	23 薬物乱用、交通安全について健康と安全の観点から強く指導している	A+B	100% (昨年度88.0%)

評価結果と分析

I 分析

生活指導においては、半数以上の生徒及び保護者の理解が得られていると考えていだろう。しかし、他校よりも厳しい校則である本校の方針に共感いただいている保護者に対し、生徒の理解は同じではないことが読み取れる。『先生は授業中の私語や居眠りを厳しく注意している』という設問では昨年とほぼ変わらない低いポイント数であることと、遅刻・携帯電話・頭髪指導においては、昨年度よりもポイントが下がっている点が大変気になる。生徒の納得・理解の薄い形での生活指導となっているのではないかと懸念される。

教職員の意識は昨年度と大幅にポイントアップし、いじめ問題はもちろん、SNS問題が頻発する中、情報モラル教育においてははっきりと適切な指導ができているという信念がポイント数から感じられる。薬物乱用や交通安全においても、生徒の安全確保の観点から見ても、学校あげての指導の実施及び安全教育の重要性がしっかりと教職員の意識に根付いていることがわかる。ただ、生活指導において、ポイント数ほぼ100%の教職員の意識と50-60%にとどまっている生徒の理解との大きな差異に不安感を覚える。

II 重点目標

生徒の抱える問題が多様化する中、それに対応するための知識と方法を教員も身につけていかねばならない。それには、人権推進委員会及び保健部との連携を図り、生徒の個性・質を知るための教員研修の実施が必須となる。さらに、問題行動を起こした生徒や保護者に事実確認をする際の対話力も重要となる。そういった会話スキル研修も実施したい。

また、今日、生徒指導に関する問題行動が表面に出てくるのではなく、SNS上での見えない隠れたところでの問題が頻発している。なかなか表面化されない問題に対し、「いじめ」「情報モラル」に対する教員の確固たる姿勢を見せることが大切である。全校生徒に向けた講習会だけではなく、学校生活の中で、学年・クラスにおいて、何重にもわたる問題提起及び「いじめ」「情報モラル」教育を実施したい。

⑨心と人権

生徒	13 人権の大切さを学んだり、考えたりする機会がある。	A+B	83%
		D	3%
	14 先生たちは、生徒の人権を十分尊重している。	A+B	77%
		D	8%
保護者	14 宣真高校は、生徒の人権やいのちを大切にす心や、社会ルールを守る態度を育てようとしている。	A+B	89%
		D	2%
教職員	22 人権尊重についての課題や指導方法についてよく話し合われている。	A+B	82%
		D	6%

評価結果と分析

I 分析

本校では、各学年の人権担当教員が、年度当初に計画した重点目標に従い、生徒が理解しやすいように、生徒たちにとって身近な事柄を中心に、人権ホームルームを実施している。

【生徒 設問13】の人権を考える機会に関する評価は83%となっており、毎学期実施される人権教育ホームルーム以外でも折に触れておこなわれる人権教育活動が評価されているものとする。

【生徒 設問14】の教職員による生徒の人権尊重に関する評価は77%となっている。昨年の80%よりも3ポイント低い評価となっており、一部の生徒は自身が尊重されていないという不満があるとする。しかし、【保護者 設問14】では宣真高校の人権教育活動について89%と非常に高い評価をいただけており、人権教育の内容をより生徒の目線に近いものにしていくことや伝える方法を吟味するなどが必要になってくると思われる。

【教職員 設問22】では82%の評価がある。日々の指導を通して行われる人権教育を含め、各学年のその時々の問題を取り上げる形の人権教育ホームルームで問題を共有できることが評価されているとする。

II 重点目標

生徒個々人の人権意識を高めるために、各学期の人権教育ホームルームの内容を充実させていくと共に、人権教育ホームルーム以外の教育活動においても折に触れて取り上げるようにして、その機会を増やしていく。生徒の実態に即した自分事としてとらえやすく、理解しやすい内容のホームルーム計画を立てて実施する。そして、人とのつながりの大切さ、相互の違いを認め合いながら尊重する意識を高めていきたい。そのためにはまずアイデンティティの確立が不可欠である。自分の存在を他者に認められ、「私は私だ」という感覚をもたずして、他者を尊重することは難しいであろう。他者尊重はもちろん、自己の理解も促していきたい。同時に、教職員は積極的に内外の研修会に参加し、自らの人権意識を高め、より有意義な人権教育として生徒にフィードバックできるようにしたい。

⑩特別活動

生徒	15	クラブ活動は活発である。	A+B	91%
保護者	15	文化祭・体育祭などの学校行事に、子どもは積極的に参加している。	A+B	91%
評価結果と分析				
I 分析				
クラブ活動の活発さについては91%という非常に高い評価をいただいている。同様に、学校行事に関する積極性についても91%と非常に高い評価をいただいている。この背景には入試広報部や各クラブ顧問の教員が頻繁にホームページ等を更新し、部活動や学校行事についての情報を身近にしている部分大きい。				
また、全国大会の壮行会・報告会が年度内に複数回行われることもクラブ活動の活発さをアピールできている。				
本年度は特に、従来とは違い、体育祭は校外での実施、文化祭は本館工事中での実施であった。そうした特別な状況下で運動部を中心に全クラブの部員達が行事成功のために陰となり日向となり尽力してくれた。こうした事実も高評価への影響を与えていると考えられる。				
II 重点目標				
部活動をよりアピールするために、昨年度と同じく、外部の大会に積極的に参加していくように志向する。				
今後もホームページ等の媒体を有効に活用することで、クラブ活動で努力している生徒を顕彰していきたい。				
来年度は創立100周年を迎えることもあり、また本館工事が9月に完成することから、校内の環境は大きく変化していく。そうしたことも踏まえて、現在の行事の充実度を増していくという方向性で進めていきたい。				

⑪学校設備

生徒	12	学校の設備・備品は十分満足できるものである。	A+B	80%
保護者	12	学校の設備・備品は十分満足できるものである。	A+B	86%
評価結果と分析				
I 分析				
学校設備についての設問の肯定的評価は、前回同様に80%台に乗っている。本館の耐震化工事にともなう、各所の改築改装に寄せられた期待値がその要因であろう。				
II 重点目標				
現在も工事が進行中だが、本館の耐震補強工事とそれに付随する改築により、従来より懸案であった箇所が着々と改造されつつある。快適な高校生活を送れるように、今後も継続して逐次変更していく。				

3年

<ul style="list-style-type: none">●スマホを持参しても電源OFFならば急な事態の時に困る。OFFさせる範囲を見直すべき（授業中に…などは当然×です）●教科の好き嫌いではなく、生徒の目線に合わすことを考えて欲しい。●実技面については申し分ないのですが…勉強嫌いな子で大変かと思いますが、もう少し厳しく勉強を見ていただくと良かったかなと思います。でも、とても良くしていただいているので感謝しています。ありがとうございます。●1/8の暴風警報のフェアキャストメールは意味が分かりにくかったです。生徒手帳に詳しいルールが書いてあるということを一言入れて頂けると良かったと思います。●本校に入学し卒業するまでありがとうございます。宣真を選んでよかったです。
--

2年

<ul style="list-style-type: none">●先生方が子供達を励ましたり楽しませたりして下さる言葉かけをして下さっていること、とてもあり難く思っております。何気ない一言もとても勇気づけられたり元気をもらっているようです。ありがと
--

うございます。進路については、自分からどう動いて良いのか分からず行動を起こせない子もおりますので半ば強制的に相談、アドバイスの場を設けて頂けると助かります。家庭でも勿論話しています。なかなか話が進まず…です。親のみでも進路指導室での相談を受けられるような場を設けてもらえると助かります。いつも大変お世話になっており感謝しております。ありがとうございます。

●いつもお世話になっております。ありがとうございます。子どもの見守り、親へのアドバイスを頂いております。子どもへの対応に役立っています。

●携帯は校舎内のみ使用禁止にしてほしい。登下校中に連絡したいときもあるので困る。

●いつも子供たちがお世話になりありがとうございます。出来るならランチルームに「お湯」「電子レンジ」があればありがたいです。

●精神的に辛い学校生活を送る生徒に対してそれぞれに対応を良くされていると思います。ですが、その生徒の周りで共に生活する環境におかれている生徒は、どう対応するべきか。もう少し、その受け入れというか、支えて頂けているなど思える環境になって欲しいです。正解はないと思いますが、今一度考えて欲しいです。

●常勤の美術教師をもう一人増やしてほしいそうです。

●親子で宣真高校大好きです(^▽^)

●最近減少してきた日本の女性教育をしていただいていると感謝しています。

1年

●暴風警報等の時に、すでに自宅から出ている場合、連絡をいち早く伝えたいので、スマホを見て良い様にしてほしいです。

●携帯電話の緩和（登下校）

●13について携帯電話の所持について通学中は電源を入れられるようにしてほしいです。通学中に何かあった際に心配ですし、すぐに連絡したい時など不便です。それ以外（頭髪など）は常識の範囲だと思います。特に厳しいとは思いません。はじめは不安そうでしたが、友達もたくさんできて通うのが楽しいそうで、中学時代より明るく、よくしゃべるようになりました。担任の先生もとても優しく困ったときに頼りになってくださり安心してます。

●学校の休みがよくわからない。（例：試験休み、追試の日など）子どもも理解できていない時があり、クラスメイトから教えてもらうことが多いようである。お弁当を毎日持参しており、保護者自身も知っておく必要がある。年間行事予定表や学年だよりを見ているが、わからない時がある。

●体調が悪く学校に行けない日々が続いていまい（1学期です）どうしていいかわからないと時間を過ごしたような気がします。もう少し学校での取り組みを教えて欲しかった（アドバイスのこと）。担任はよくしてくれました。

●他の施設はすばらしい！体育館を立ち寄りやすくきれいにしていただけたら…と思います。

●自転車置き場に屋根の設置をお願いします。